



# Support

<http://www.city.niigata.lg.jp/kosodate/gakko/index.html>

第6号

平成27年9月11日

編集・発行

学校支援課 広報担当

## 新潟水俣病の教訓を生かし、身近な環境問題を学ぶ

～地域の特色を活かした環境学習支援事業～

新潟市では、平20年度より毎年、以下のような趣旨でモデル校を指定して、「地域の特色を活かした環境学習支援事業」を実施しています。(1校 15万円程度の支援)

### 昨年度の取組の様子



水質環境と生き物の関係を調べ、水を汚さないための取組を考え、実践する子どもたち  
(H26年度 早通小の活動より)



新潟水俣病の「語り部」の方から真剣にお話を聴く子どもたち  
(H26年度 豊栄南小の活動より)



環境と人間のふれあい館で、水と人のくらしとのかかわりを学び、新潟水俣病へと関心を高める子どもたち  
(H26年度 沼垂小の活動より)

### 平成27年度 モデル校

豊栄南小学校(北区)

山の下小学校(東区)

白山小学校(中央区)

沼垂小学校(中央区)

早通小学校(江南区)

赤塚小学校(西区)

和納小学校(西蒲区)

升潟小学校(西蒲区)

今年度も上記の学校がモデル校として取り組んでいます。今回は、この中から升潟小学校の取組の様子をご紹介します。



## 升湯小学校(4年生)の取組 ～水の中にすむ生き物調べを通して、新潟水俣病に迫る～

生き物の大好きな子どもたちは、初めに校庭の丸池、学校田、用水の様子を調べはじめました。網を何本もダメにしながら、水の中に住む生き物を沢山発見していきました。全く姿形の違う生き物の変態を知ること、水生生物の不思議さを感じ取っていました。



見たことのない、足が何本もついている、くねくねと動く謎の幼虫が発見されました。

また、インターネットで調べたり、生物に詳しい先生に聞いたりしました。食べるエサはどんなものを食べるのか、水替えはどのようにすればよいのか、図書室から本を借りてきて一生懸命に飼育方法を調べていきました。そして、見事にギンヤンマに羽化した姿を見ることができました。元気に子どもたちの手から大空へと羽ばたいていきました。



学校田で採取した虫が、プールでたまたま見つけたゲンゴウロウの少し小さくなったようなコガムシという虫の幼虫であることが分かりました。



校庭の丸池には、たくさんの小さなヤゴがいることが分かりました。5cmくらいの大きな金色のヤゴが見つかりました。

生き物を飼育することを通して、子どもたちは水について考えるようになりました。学校田から見つかったドジョウ、校庭の丸池にいるメダカ・ヤゴが、それぞれ住んでいる場所が違うのはなぜなのか、疑問を抱きました。水の流れがあるのとないのとの違いがあることと、学校田の水・用水路の水と丸池の水では、水のきれいさに違いがあるのではと考えました。そこで、両方から水を取ってきて、水質を調べてみる活動を行っています。

今後、この用水路の水はどこへ行くのか、用水路をたどっていく活動を行っていきます。そして、水質がどのように変わっていくのかを調べていく活動を行っていきます。その中で川の汚れなどに注目し、新潟水俣病がどうして起こったのか追究していきます。  
(升湯小 学校だより から)

